

□ 誤嚥による窒息や肺炎を起こすことがあります。

- ・嚥下機能が低下している場合に起こり易い現象です。
- ・食事を摂ることは、多少なりともこのリスクがあります。

万が一このようなことが起こった場合、処置の内容についてご理解いただき、また処置を行っても救命に至らない場合が多いこともご理解いただかねばなりません。

①管による吸引 ②喉頭鏡による異物摘出 ③気管内挿管 ④気管切開術

いずれも苦痛を感じることもある治療になりますが、窒息自体も苦痛を伴うので、当院で可能な治療を行います。②以降は高度な技術を要し、困難な場合もあります。

③・④については必要な場合は当院で行うことが困難なことも多く、岩見沢市立総合病院への搬送が必要になります。

- ・窒息に伴って呼吸のみならず、心拍も停止することがあり（心肺停止）、心臓マッサージや人工呼吸などを同時に行う（心肺蘇生）ことも十分にあり得ます。

これらの治療について 1.何もしないでほしい 2.当院で出来る範囲のことを行ってほしい 3.可能性のあること全てを希望する

※緊急処置のため治療が優先となり、連絡が遅くなることもあります。

□ 誤嚥の可能性が非常に高いと判断した場合などは絶食にすることもあります。

- ・その場合には、通常①点滴による栄養・水分の補給 を行います。しかし、一時的な措置で改善が見込めなくなった場合には以下のことを検討しなければなりません。

②経鼻経管栄養 ③中心静脈（CV）栄養 ④胃瘻や腸瘻などの手術 ⑤口から摂る栄養と水分のみで自然に任せる

①を行わない場合は、回復する可能性を失うことになりかねません。②は鼻から管を胃まで入れて栄養剤を注入する方法です。③は埋め込んだ管から必要な栄養を持続的に点滴する方法です。血管に入れた管から点滴をする方法（CVカテーテル）と皮下に埋めた装置に点滴をつなぐ方法（CVポート）があります。④は手術をして胃や腸に直接管を入れて、栄養剤を注入する方法です。④以外は当院で可能です。

①～⑤全てにそれぞれのリスクはあり得ます。

※希望される場合には、事前に行う治療に応じた説明を行います。

これらの治療について 1. 食べられなくなっても点滴をしないでほしい（⑤）
2. 点滴だけは行ってほしい（①）
3. 当院で可能なことを行ってほしい（①～③）
4. 胃瘻や腸瘻も考慮してほしい（④）